



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第20号

発行日：平成16年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)

ドッカ～ン



2004年2月24日の朝。博物館の展望台から富山市水橋付近の海岸を望遠レンズで撮影しました。まるで水中で何かが爆発したかのように、大きな白い波が盛り上がっています。北海道付近で発達した低気圧によって発生した“うねり”(右写真)が日本海を南下し、富山湾の沿岸に打ち寄せたものです。水深が深い富山湾では、岸近くまでうねりのエネルギーが保たれたまま到達します。この波の大規模なものは“寄り回り波”と呼ばれ、富山湾沿岸で恐れられています。



平行な縞状の“うねり”

展望台から何が見える？

学芸員 石須秀知

魚津埋没林博物館には、高さ約20mの展望台があります。そこからは、3000m級の北アルプスや、神秘の富山湾、視界がよければ能登半島も一望にすることができます。展望台は、博物館本来の目的とは直接関係のない、気分転換スペース的に考えられているかもしれません。でも、見方しだいで、単に「きれいな景色」という以上のいろいろなものを見ることができます。



展望台と北アルプス

まず、展望台から東側を望めば、そこには北アルプス立山連峰の山並が連なっています。とはいっても、この場所は立山連峰を北から見ることになるので、有名な立山(雄山)や剣岳は折り重なるようになってあまり存在感がありません。よく「立山はどれですか？」と訪ねられますが、説明してもなかなか分かってもらえないこともしばしばです。

展望台から見える山の中では、毛勝山と僧ヶ岳がもっとも目立ちます。この二つの山は、いずれも魚津市と、隣接する市町との境界になっていて、魚津市側の斜面は、市内を流れる片貝川の水源でもあります。片貝川の水は扇状地の伏流水となり、博物館の近くでも湧き出しています。この伏流水によって、埋没林がおよそ2000年の間保存されてきたと考えられています。

春から初夏にかけては、僧ヶ岳の山肌に現れる雪絵がよく見えます。雪絵は、残雪の形を僧侶や動物などに見立て、その変化が農作業の時期や川の水量の目安として昔から活用されてきました。現在では、そのような生活に密着した意味合いは薄れてしまいましたが、季節の風物として広く親しまれています。



僧ヶ岳の雪絵



北アルプスの山の中で、登山者に人気の高い白馬岳も見えます。博物館のある位置からは、僧ヶ岳から左(北)へ伸びる尾根上に、その山頂付近が少しだけのぞいています。白馬岳と清水岳、旭岳が見かけ上ほぼ同じ位置で重なり合い、この3つの山を判別するのは困難ですが、白馬岳も確かに見えます。逆に考えれば、白馬岳の山頂からこの博物館が見えるということにもなります。

さて、山の展望はこれくらいにして、今度は海の方へ視線を転じてみましょう。

正面の富山湾越しに、なだらかな山並が見えます。「能登半島ですか?」ときかれることが多いのですが、正面(西)に見えるのはまだ半島の付け根、氷見市付近です。本当に視界のよい日には、そこから右(北)の方向へ連なる能登半島が見られます。半島の先端は水平線の下になってしまうために見ることはできませんが、博物館のほぼ真北近いところまで能登半島は伸びています。景色を見ながら、富山湾や能登半島の大きな地形を思い浮かべてみてください。

富山湾といえば、蜃気楼。博物館周辺は蜃気楼の展望地として知られています。しかし、蜃気楼は、展望台の高さからほとんど見ることができません。蜃気楼は層状の大気密度差によって起きる現象で、その大気層の高さはおよそ10m以下。蜃気楼はそれより低い位置からでないとは見えないのです。

蜃気楼は見えませんが、がっかりしないでください。運がよければいろいろな興味深い現象を観察するチャンスがあります。特に冬は、要チェックです。

上空に寒気が入り、富山湾上で積乱雲が発達すると、竜巻が発生する可能性があります。富山湾の竜巻は、ひと冬に数回発生しますが、ほとんどは規模が小さく、上陸せず海上で発生・消滅するので、落ち着いて観察することができます。一つの竜巻が消えた後にも、次々と新た

な竜巻が発生することも多く、ときには同時にいくつもの竜巻が見られることもあります。まるで生き物のようにうごめきながら海上を進んでいく竜巻は、なかなかの見ものです。



竜巻

また、冬型の気圧配置によって北海道東岸で低気圧が発達した翌日などには、大きな波が対岸で“爆発”しているのを見ることもあります(表紙)。低気圧はすでに遠ざかり、風は穏やかなのに、対岸で大きな波が砕け散っている様子は何か不思議です。しかし、海面をよく見れば、縞状のうねりの列が岸に向かって進んでいくのが分かります。うねりの進行方向と海岸線の向きの関係から、博物館の周辺ではそれはどの大波にはならず、湾の南端の富山市、新湊市、滑川市などで大波が砕けます。このようなうねりは、年に何度か富山湾にやってきます。

このように、いろいろなことに着眼することによって、展望台を“実物展示室”として活用することもできます。さて、次に展望台に上ったときには、何が見えるのでしょうか。



シリーズ

埋没林の仲間たち ⑱

ツツジ科

春を代表する花木として親しまれている“ツツジ”。単にツツジという植物はなく、ツツジ科ツツジ属のヤマツツジ、レンゲツツジ、サツキツツジ、ミツバツツジ類など、ラッパ型の花の外見などが多少とも似ている植物の総称です。野生種のほか、多くの園芸品種がありあす。このほかツツジ属には、ちょっと雰囲気の違いシャクナゲ類やコメツツジ類なども含まれています。



ヤマツツジ

ツツジ科には、ツツジ属のほか多くの属があり、世界に約2500種あるといわれています。果実が食用になるコケモモやブルーベリーの仲間などもありますが、ツツジ属やアセビ属などには有毒の種類もあります。



ハクサンシャクナゲ

* * *

現在の魚津市内では、ヤマツツジ、ユキグニミツバツツジなどツツジ属をはじめ、ツツジ科の植物は20種前後が記録されています。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査でツツジ科の花粉が検出されています。

お知らせ

●平成16年度の行事予定

☆企画展示

- 蜃気楼写真展 ————— 5月1日～6月31日
- 「年輪展」(仮称) ————— 8月1日～10月17日
- 魚津の美しい自然と祭写真展 — 11月下旬～12月下旬
- 魚津ナチュラルギャラリー⑤ — 1月2日～3月31日

☆ふれあい学習会

- 四つ葉のクローバーみ～つけた ——— 5月22日(土)
- 魚津の自然バスツアー ————— 7月24日(土)
- 森のめぐみで工作と野草茶 ——— 9月25日(土)
- もみじで楽しく葉書づくり ——— 10月30日(土)
- つるつるつくる ————— 11月20日(土)
- 冬の蜃気楼ウォッチング ————— 2月下旬

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
 e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

